

薬剤部だより No.154

山口大学病院薬剤部

2002.11.19

バンコマイシン注の皮内テストは無意味です

塩酸バンコマイシン注の皮内テストに関して、問い合わせが多数ありますが、塩酸バンコマイシン注は酸性度が高い(pH 2.5～4.5)ため、皮内テストの結果がほぼ100%陽性となり、皮内テストは意味がありません。アレルギー反応、red neck(red man)症候群や血圧低下等の副作用の発現を防ぐためには、**60分以上かけて点滴静注**して下さい。

1%ディプリバン注投与に使用するチューブ等は12時間毎の交換を

全身麻酔・鎮静用剤として1%ディプリバン注を使用する際、ポリカーボネート製三方活栓にひび割れを生じたという報告がありました。発生原因として、1%ディプリバン注に含有されている脂肪乳剤による劣化及び輸液チューブと三方活栓の接合部分の強い締め付けによる可能性が考えられています。

1%ディプリバン注は防腐剤を使用しておらず、また脂肪乳剤のため汚染されると細菌が増殖し、重篤な感染症が起こるおそれがあります。

投与に使用した注射器、チューブ及び残液は手術終了時又は、投与開始12時間後のいずれか早い時点で廃棄して下さい。また12時間を超えて投与する場合は、新たな注射器、チューブ及び1%ディプリバン注を使用して下さい。

アレルギースクラッチエキス6品目が販売継続となりました

DI月報 No.180にて、動物由来原料を用いたアレルギーエキス28種55品目について、ウイルスの不活化/除去処理を行うことが困難であるため、9月末をもって販売中止とのお知らせをしましたが、この度以下のアレルギースクラッチエキス6品目に関して原料の品質確保が可能となり、販売が継続となりました。

診断用アレルギースクラッチエキス

牛乳・卵黄・卵白・犬毛・猫毛・兔毛

薬剤部だよりは薬剤部のホームページでもご覧になれます。

<http://www.sv.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yakuzai/>

添付文書上に投与期間制限が記載されている当院常備採用薬

以下の薬剤は、添付文書上に投与期間制限が記載されている当院常備採用薬(内服・外用)です。

処方される際に参考にして下さい。

薬剤名	期間	コメント
オメプラール錠(10,20)	8週間	胃潰瘍、吻合部潰瘍の場合
	6週間	十二指腸潰瘍の場合
	7日間	ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の場合 (1回20mgを1日2回7日間)
タケブロンCap(15,30)	8週間	胃潰瘍、吻合部潰瘍の場合
	6週間	十二指腸潰瘍の場合
	7日間	ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の場合 (1回30mgを1日2回7日間)
パリエット錠(10,20)	8週間	胃潰瘍、吻合部潰瘍の場合
	6週間	十二指腸潰瘍の場合
カイトリル錠	6日間	癌化学療法の各クールにおいて
ゾフランザイディス、シロップ	3~5日間	癌化学療法の各クールにおいて
ナゼアOD錠	5日間	癌化学療法の各クールにおいて
ナボンCap	1日間	癌化学療法の当日
	3~5日間	抗悪性腫瘍剤を連日投与する場合はその投与期間中(通常3~5日間)
アリセプト錠(3)	1~2週間	1日1回3mgから開始し、1~2週間後に5mgに増量する
クロミット錠	5日間	1周期につき5日間を限度とする
サノレックス錠	3ヵ月	1ヵ月以内に効果のみられない場合は投与中止
次硝酸ピスマス	20日程度	原則として1ヵ月に20日程度(1週間に5日以内)
ダイドロネル錠	2週間	骨粗鬆症の場合(投与期間は2週間、再投与までの期間は10~12週間)
	3ヵ月	脊髄損傷後、股関節形成術後の場合
	3ヵ月 or 6ヵ月	骨ペーজেット病の場合(200mg/dayの場合は6ヵ月、200mg/dayを超える場合は3ヵ月まで)
フロリードゲル経口用	14日間	原則として14日間。7日間投与しても症状の改善がみられない場合には投与中止。
小児用バクシダール錠	7日間	できるだけ短期間(原則として7日以内)
メイアクト細粒	14日間	小児に使用する場合
メキシチールCap(50,100)	4週間	糖尿病性神経障害に伴う自覚症状の改善を目的として投与する場合
ジスロマック(100,250) 細粒	3日間	
タミフルCap	5日間	
カロナール坐薬(100,200)	5日間	原則として長期投与を避ける(5日以内に限る)
スプレキュア点鼻液	6ヵ月	子宮内膜症、子宮筋腫の場合
ファルネゾングル	12週間	指、手、肘以外の広範囲にわたる使用、1日塗布量として20gを超える大量使用及び12週間以上の長期使用を避けること
プロナック点眼液	4週間	原則として4週間以上の継続投与は行わないこと